

2014年度

Happyくらす作品コンクール 入賞作品集

いずれも力作揃いで審査に苦慮しましたが、優秀賞 1 作品、
佳作 1 作品、学生FDスタッフ特別賞が 1 作品が選ばれました。

今年度テーマ：「心に残る授業」

講義の思い出、心に響いたクラス、自分を変えた授業、目の覚めた講義、元気の出た授業など、講義を通して得た発見や感動、体験、成長などを作品にして応募してもらいました！

授賞式次第

司会進行 全学FD委員会 副委員長 杉谷 祐美子

1. 開会挨拶

学務及び学生担当副学長
全学FD委員会委員長 長谷川 信

2. 各賞授与

優秀賞 文学部史学科3年 酒井 優清さん
佳作 国際政治経済学部国際経済学科2年 木村 匠さん

学生FDスタッフ特別賞 文学部史学科3年 酒井 優清さん

3. 座談会

Happyくらすコンクールとは

学生のみなさんが青山学院大学でたくさんのことを学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていきたいという思い。それは青山学院大学に集う全ての人の願いだと思います。

そこで、青山学院大学での授業の思い出について学生のみなさんに作品の形で表現してもらい、他の学生たちや教職員と広くその思い出を共有できる場として、昨年度より実施しているのがこのHappyくらすコンクールです。

コンクール実施概要

応募テーマは次の3つのジャンルのいずれかから選択。

第1ジャンル： エッセーなど、文章で表現する作品。最大2000字。

第2ジャンル： 詩、俳句、短歌、川柳など、短い韻文で表現された作品。

第3ジャンル： 漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

副賞として優秀賞には副賞5千円分、佳作には副賞3千円分、学生FDスタッフ特別賞には副賞3千円の図書カードを進呈します。

心に残る授業 一私と韓国語

文学部史学科 3年 酒井 優清

W受賞おめでとう
ございます!!

優秀賞
酒井優清
さん

学生FDスタッフ
特別賞



「アニョハセヨ」のあいさつで始まるその授業は、私にとって常に緊張と不安が入り交じっていた。その授業の名は、インテンシブ・韓国語。第二外国語として、学んだ韓国語をさらに究めようとする学生のための授業である。私は今でも、第1回目の授業を覚えている。この授業を履修する際には、受講の認定試験を受けなければならなかった。教室に入ると、すでに女子学生が何名かいた。その後も入ってくるのは、女性ばかりで、チャイムが鳴ったとき、私を除いて全員が女性であった。そして、私を含め人数は10人。問題が配られ、

解き始めると、私はわからない問題の多さに唖然とした。答え合わせで、指名された女子学生たちはすらすらと答えていく。英語と違って、1年間しか勉強していない韓国語。男子は自分だけ。本当に1年間、週コマもやっつけていけるのだろうか。そのような思いが何度も頭をよぎった。しかし、帰宅後にポータルを見たとき、もう逃げられないと思った。すでに履修登録が完了していたのだ。私が飛び込んだインテンシブ・韓国語は、私にとって、まさに大きな試練の場となったのである。

インテンシブ・コースは、日本人の教員とネイティブの教員が担当する授業である。2回目の授業は、ネイティブの先生であった。私の予感はお的中した。先生から韓国語で簡単な自己紹介をするように言われたのだ。私は、単語を書いたメモを見ながら、言うのが精一杯であった。しかし、周りの学生たちは私と違い、メモなど見ることなく、先生の目を堂々と見て、発言していた。この時、私はインテンシブ・コースを受講する意識が私と彼女たちでは大きく違うことに気付かされた。

そこで、私が意識を高めるために実践したことが、誰よりも早く教室に行き、教科書とノートを広げて待つことであった。これは一見すると無駄なことかもしれない。しかし、ひとりだけの静かな教室はいいものである。最初に来ることによって、誰よりも授業に対する思いが強いことを自然と肌で感じることができるからだ。また、余裕を持つことによって、授業に対する緊張感は和らぎ、刻一刻と迫る授業へのモチベーションも上がった。これは、いわば精神統一のようなものである。

次に、同じ授業を受ける学生たちとのコミュニケーションを大切にすることである。学び合う仲間の存在は、自分の意識を高めるための有効な方法である。きっかけは忘れてしまったが、授業を受ける毎に、女子たちといろいろな話をするようになった。特に韓国についての話は、私も勉強になったが、同時に彼女たちの韓国に対する強い関心、興味が伝わってきた。この時、私は心の中で、彼女たちに負けたくない、追いつきたいという思いでいっぱいになった。

この2つのことをとにかく続けた。すると、とんでもない変化が起きた。自然と授業へ行くのが楽しみになっている自分に気付いたのだ。そのきっかけは「早く明日にならないかな。明日のインテンシブ・韓国語の授業がとにかく楽しくて」と私が友人に言ったときであった。これは、自然に出た言葉であった。そこには、かつて授業におびえていた私は存在しなかった。いつの間に、このような変化が起きたのか、私にもよくわからない。しかし、私が自分に向かって言えることはただひとつ。「よかったな」と。こうして、私は1年間、インテンシブ・韓国語を続けることができた。最後の授業では皆で、記念写真を撮ったが、そこには4月のこわばった私の顔はなかった。あるのは、ただ笑顔があふれる私の顔であった。

大学の授業は、学問を究めるだけの場ではない。教員も学生も常に変化する環境の中で、自分自身を成長させる場である。私たちには多くの選択肢が与えられている。どんなに先生が厳しくても、どんなに単位を取るのが大変であっても、そんなことは関係ない。自分の興味や関心に従って、自分を成長させる授業を選ぶことが大切である。

最後に、インテンシブ・韓国語を担当されている金愛慶先生と、生越まり子先生に感謝を申し上げたい。金愛慶先生も生越まり子先生も、私のつたない韓国語を親身に聞いて、いろいろな指導をくださった。そして、何より私の努力を認めてくださったことが、本当に嬉しかった。私は現在、韓国語Ⅲの授業を履修している。私がこの最上級レベルの授業に足を踏み入れたのは、インテンシブ・韓国語で学び、鍛えられた自分がいたからである。私は今も、韓国語の習得はもちろん、新たな成長を求めて、突っ走っているのである。

講評（優秀賞）

通常ならば挫折してしまうような自らの「アウエー」な立場から、努力と苦労によって授業を楽しみに思えるところまで成長した作者の様子がよく伝わって来た。自分に対する克己心と周囲とのコミュニケーションにより、授業を何倍も意味あるものにした作者の姿勢を評価したい。「自分の興味や関心に従って、自分を成長させる授業を選ぶ」大学での学びを再確認させてくれた作品だった。学ぶことの楽しさを知り現在も韓国語の学びを進める、作者のさらなる成長に期待したい。

講評（学生FDスタッフ特別賞）

授業による心情の変化、体験を通しての成長が臨場感と共に良く伝わって来た。

真のグローバルな教育とはなんだろうか

国際政治経済学部国際経済学科2年 木村 匠

『今日から、ここがあなたたちのオフィスです』
初回の英語の講義で突然、教授から言われたのは思いもよらないものであった。

昔から授業といえば先生が一方的にある分野について語るものだと認識していた私は呆気にとられるほかなかった。グループでプレゼンテーションを行うという内容なのだが、誰と組んでもいいし、仮にもう少し準備期間が必要な場合は発表の期日を延期することも可能。

教授は私たちに自由を与え、何もかも決める権利を与えてくれた。当然、だらける学生もおり、教授の優しさに付け込んで闇雲に発表の延期を求める学生も当然いた。しかし、私にとっては大学での学びそのものについて抱いた思いが180度変わる講義であった。

プレゼンテーションの内容は英語と日本語、二種類の言語で行うように言われていた。だから、どちらか片方の言語しかわからない人にもきちんと自分の意見が通るように準備をしてくる必要があった。私たちのオフィスはこの教室全部。そして、グループの仲間はオフィスでも同じプロジェクトを進めるチームであると教授はおっしゃった。ほとんどすべての発表準備や互いのスケジュールリングを自分たちの手でやらなければならないのは辛い部分もあり、時に意見が割れた際には非常に陰湿な雰囲気になったりした。それでも、教授は私たちを信頼し、最後まで自主性に委ねるとの方針をとっていた。

その後、二回のプレゼンテーションを経て、早くも15週間という月日が流れた。教授が最後に私たちにかけた言葉、それは、

『君たちには可能性がある。グローバルな時代に生き残っていくためには自由な発想と自由な議論を行っていく必要がある。そのためには、仲間を信じ、仲間とともに同じ目標を目指して歩むことがこれからの時代には求められている。いろんな人種の人と付き合い、理解しあうことがどれほど大切なことなのか……。それを今後の課題として自ら発見して行ってほしい。どうか、このことを忘れずにいてほしい。今まで、ありがとう。』

縛られたルールや縛られた価値観の下で受ける授業には自ら主体的に行動するという概念は生まれてこない。自由をどのように享受するかは学生次第だが、一方で自由を良しとする教授もいる。

さて、真のグローバルな教育とはなんだろうか。



講評

主体的な学びの場であるアクティブ・ラーニングにはじめて触れた作者が、ときに悩みながらも自分なりに学びを進めていった様子が伝わって来た。大学の自由な環境をどのように享受するかは学生次第であることを悟った作者の姿から、「主体的な学習とは何なのか」を考えさせられる作品となっている。タイトルにもなっている「真のグローバルな教育とはなんだろうか？」といった問いに対して作者が見つけた答えを聞いてみたい。



このコンクールを主催している“全学FD委員会”の“FD”って何？
“FD活動”って、学生も参加できるの？

FDとはFaculty Developmentの略で、授業改善のための組織的な取り組みをいいます。青山学院本学では、FD推進委員会直下の組織として学生FDスタッフが活動しています。大学の授業を「学生が本当に求める授業」にするため、さまざまな活動・企画を通して学生視点で授業や教育のあり方を考えています。

学生FDスタッフは随時募集中ですので、ご興味のある方はぜひ教育支援課 (agufd@aoyamagakuin.jp) まで、お気軽にお問い合わせください！



2014年度Happyくらすコンクールにたくさんのご応募をいただき、皆さんありがとうございました。

良い授業は教職員だけでは作れません。学生の声を反映させることで、大学の授業を「学生が本当に求める授業」にしてみませんか？

学生FDスタッフも随時募集中です！